



# 教科における探究的な学習の充実

## 実践編



### 地理歴史科(歴史総合)

#### 1 小単元 大衆社会の形成と社会運動の広がり(第1学年)

(内容のまとめり C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (イ) )

#### 2 小単元の目標

- (1) 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
- (2) 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、設定した主題について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 大衆社会の形成と社会運動の広がりに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組むとともに、問いと関連付けて追究しようとする態度を養う。

#### 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、設定した主題について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。	大衆社会の形成と社会運動の広がりに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組むとともに、問いと関連付けて追究しようとしている。

#### 4 小単元の指導と評価の計画

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時間	問い・主な学習活動〔評価方法〕		評価		
			知	思	態
1 2	小単元全体の問い(学習課題)	第一次世界大戦後、人々はどのような社会を目指し、実現したのだろうか？			●
	問い(学習課題)	世界各国で、大衆の政治参加や大衆社会の形成はどのように進展したのだろうか？	●		
3	問い(学習課題)	日本では、どのようにして大衆社会が形成されていったのだろうか？	●		
	問い(学習課題)	世界各国における、大衆の政治参加や大衆文化の背景や進展について把握し、理解する。			
4 5 6 7 8前	問い(学習課題)	世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのだろうか？			
	問い(学習課題)	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。〔生徒作成による新聞・ワークシート〕		○	●
8後	小単元全体の問い(学習課題)	第一次世界大戦後、人々はどのような社会を目指し、実現したのだろうか？			
	問い(学習課題)	ワークシート等の記述内容を再確認しながら、小単元全体で学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる。また、小単元(1)「国際秩序の変化や大衆化への問い」で自ら設定した問いについて確認し、新たに気付いたことをまとめる。〔ワークシート〕		○	○
単元終了後		〔ペーパーテスト〕	○	○	

探究的な学習

## 《 本小单元における探究的な学習について 》

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことを目的とし、本小单元の4～8時間目では、「世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのだろうか?」という学習課題を追究するための、探究的な学習の過程を設定した。このように、主体的に課題を追究できるようにすることで、習得した知識や概念を活用して多面的・多角的に考察し、表現することができる資質・能力の育成を図った。

なお、学習指導要領解説にも、第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することで、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する学習の過程の例が示されている。

## 5 学習活動の実践と指導のポイント

### 1～3時間目

最初に小单元全体の問い(学習課題)である「第一次世界大戦後、人々はどのような社会を目指し、実現したのだろうか?」について考え、小单元の見通しをもつ場面を設定した。その後、大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化を基に、世界各国の第一次世界大戦後の大衆の政治参加や大衆文化の背景や進展、日本における大衆社会の形成について把握し、理解する時間とした。

### 4～8時間目前半 探究的な学習

#### 探究的な学習の過程

4時間目

① 目標の確認



② 課題設定



③ 情報収集



5・6時間目

④ 整理・分析



⑤ まとめ・表現  
(新聞作成)



7時間目

⑥ まとめ・表現  
(発表)



8時間目  
前半

⑦ 振り返り

#### 4時間目 [探究的な学習の過程①～③]

最初に、探究的な学習の目標をルーブリック(p.5の6を参照)を用いて確認する場面を設定した。その後、「世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのだろうか?」という問い(学習課題)を設定して授業を進めた。次に、各国の新聞記者として自国の政治や社会、文化の変化について、肯定的または否定的立場で特集記事を作成するという学習活動について説明し、ガイダンスプリントを使って新聞作成の手順や注意点を確認する展開とした。最後に、グループごとにタブレットを用いて情報を収集する時間を設けた。

#### ◎指導のポイントと生徒の様子◎

ルーブリックを使う目的、判断基準の意味などを丁寧に説明し、生徒が活動の見通しをもてるようにした。ガイダンスプリントには、新聞を作成する上での注意事項、作成の手順等を記載し、生徒がグループで協力しながら主体的に活動を進められるよう配慮した。

生徒は、これまでの学習内容を踏まえ、グループで役割を分担して、それぞれの国や立場から情報を収集していた。その際に、信頼性の高いWebサイトから情報を集めることや偏った視点からの情報だけにならないように指示をした。

歴史総合授業プリント 「国際協調と大衆社会の広がり」 **ガイダンスプリント**

1年( )組( )番 氏名( )

◎探究的な学習の問い  
「世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのか?」

○大衆社会新聞を作成しよう!

1920年代後半、皆さんはある国の新聞社の記者として働いていました。第一次世界大戦も終わって、世の中は大きく変わりました。そこで新聞社では、第一次世界大戦後の自国の政治や社会・文化の変化について、新聞の特集を組むことになり、皆さんが担当記者になりました。

グループで第一次世界大戦からしばらくたった世界について新聞記事の体裁でまとめましょう!

【重要!】新聞作成について

- ・ タイトル、名前は指定されたところに記入すること。
- ・ 色、図章の挿入など、構成は自由。読者の関心を引くよう工夫すること。
- ・ 新聞社の方針に従うこと。でも新聞のタイトルは好きに決めていいよ。

(※皆さんの所属する新聞社は、自国の情勢について思うところがあるようです。)

○新聞作成の手順

- ① 掲載する記事を決める  
→ 新聞社の方針に則って、どのような内容にするか検討する
- ② 情報収集  
→ 【重要!】集めた情報・資料を分析して新聞の内容をおおまかにまとめる。  
→ タイトルは分かりやすく、短く、大きめに。
- ③ 見出しを作る  
→ 見出しを作り、何をどこに書くかおおよそな構成を決める。
- ④ 記事を書く  
→ 事実と意見を明確に書き分ける。(データを基に、社説を添えるイメージ)  
→ 大事なことを短文で書く。(新聞は文字数が限られている)

ガイダンスプリント



## 5・6時間目 [探究的な学習の過程④⑤]

この時間は、前時に収集した情報を整理・分析しながら、タブレットを用いて新聞を作成する時間とした。新聞を作成する際には、グループごとに指定された国や立場を踏まえ、掲載する記事、タイトル、見出し、記事の構成等を、作成の手順に従って、グループで内容を検討したり、議論したりしながら進める展開とした。記事の構成を考えた後は、役割を分担して、個人で記事を作成してから集約し新聞を完成させる展開とした。また、完成した新聞記事については、Microsoft Teams上で、教員・生徒で共有する場面を設定した。

### ◎指導のポイントと生徒の様子◎

新聞を作成する際には、生徒がこれまでの学習やガイダンスプリントを参考にしながら、グループで主体的に取り組めるように支援した。また、情報を整理・分析する際には、歴史的な事象について、収集した資料やデータの事実に基づき、自分の立場を明確にした上で分析するよう指導したことにより、生徒は、肯定的または否定的立場から記事を書くことができていた。

生徒は、実際の新聞記事を手本にしながら、読者の関心を引くことができるようにタイトルや見出しを工夫し、図やイラストなども用いて、記事の作成を進めていた。文字数が限られているため短文で文章を構成し、簡潔にまとめるよう指導した。

#### 《新聞作成の手順》

- ①掲載する記事を決める  
→新聞社の方針に則って、どのような内容にするか検討する
- ②情報の整理・分析  
→集めた情報や資料を整理・分析して新聞の内容をおおまかにまとめる。
- ③タイトルを決める  
→タイトルは分かりやすく、短く、大きめに。
- ④見出しを作る  
→見出しを作り、何をどこに書くかおおまかな構成を決める。
- ⑤記事を書く  
→事実と意見は明確に書き分ける。(データを基に、社説を述べるイメージ)  
→文章は大事なことを短文で書く。(新聞は文字数が限られている)

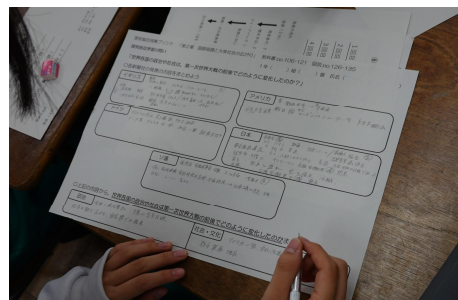
生徒が作成した新聞記事

## 7時間目 [探究的な学習の過程⑥]

この時間は、ワールドカフェ方式でメンバーの入れ替えを行いながら、作成した新聞記事を用いて発表したり、他のグループの発表を聞き、それに対する質疑応答をしたりする時間を設定した。その後、聞き取った内容を自グループで共有し、それを基に、「世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのだろうか?」という問い(学習課題)に対する自分の考えをまとめる展開で進めた。



タブレットを用いて新聞記事の内容を発表している様子



問いについて自分の考えをまとめている様子

## ◎指導のポイントと生徒の様子◎

発表前に打合せの時間を設け、要点を絞って論理的・分析的に説明できるよう、発表の内容や項目を確認するよう伝えた。また、発表を聞く際には、自グループの内容と比較しながら聞き取り、質疑応答の時間を通して理解を深めるよう指導した。そして、得られた知見を自グループで共有するよう促した。

発表する側は、タブレットを用いて新聞記事を提示しながら特に強調したい記事を拡大して示したり、聞き手の反応を見ながら丁寧に説明したりするなど工夫し、相手に伝わりやすい発表を目指し活動に取り組んでいた。聞き手側は、分からない点や疑問に

思った点について積極的に質問をし、後に自グループで共有できるようにワークシートに記録していた。また、自グループに戻り、聞き取った情報を互いに共有したことで、個人の考察が一層深まり、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連を、多面的・多角的に考察し、表現することにつながった。

歴史総合授業プリント 「国際協働と大衆社会の広がり」 発表まとめ用ワークシート

1年( )組( )番 氏名( )

◎探究的な学習の問い  
「世界各国の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのだろうか？」  
○各新聞社の発表の内容をまとめよう

イギリス	アメリカ
ドイツ	日本
ロシア	

○上記の内容から、世界各国の政治や社会は第一次世界大戦の前後でどのように変化したのか。まとめよう

政治	社会・文化
----	-------

発表まとめ用ワークシート

### 【生徒の記述例】

- ・制限選挙から普通選挙への移行で選挙権が拡大したことにより、大衆の政治参加が進んだ。さらに、女性運動の影響で女性の大学進学者数が増加し、社会進出が進んだことから、欧米では女性の参政権も獲得された。また、大衆社会が成立し、大量生産・大量消費や娯楽をはじめとした大衆文化が広まった。
- ・国ごとに民主化の状況は異なるが、男子普通選挙の実現や女性の参政権獲得など、民衆が政治に参加する機会が増えた。民衆は権利を主張するようになり、社会運動も盛り上がった。また、経済的繁栄を背景に各国で大衆社会が成立し、大量生産・大量消費が可能になったことで大衆文化が広まり、アメリカは世界経済の中心となった。新聞やラジオなどのマスメディアの発展は、政治や社会運動にも大きな影響を与えた。

## 8時間目前半【探究的な学習の過程⑦】

探究的な学習のまとめとして、これまでの学習成果を基に、今後の学習内容につなげる目的で「第一次世界大戦後の『大衆化』」について個人で考察を行い、ワークシートにまとめ、グループで共有する時間とした。その後、探究的な学習の振り返りとして、4時間目の最初に提示したルーブリックを用いて、自己評価と相互評価を行う場面を設定した。

## ◎指導のポイントと生徒の様子◎

「第一次世界大戦後の『大衆化』」について、自分の考えをワークシートにまとめる際には、これまでの学習で獲得した知識や概念を活用して記述するように促した。生徒は、その当時の各国の状況や社会的背景と関連させながら大衆化について表現していた。

自己評価をする場面では、ルーブリックに基づいて、探究的な学習の過程を振り返るとともに、作成した新聞記事やワークシート等を参照しながら進めるように伝えた。また、相互評価をする場面では、他の生徒からの意見に耳を傾け、必要に応じて自己評価を修正するように促した。

## 8時間目後半

これまでの学習内容やワークシートを振り返り、小単元全体の問い(学習課題)である「第一次世界大戦後、人々はどのような社会を目指し、実現したのだろうか？」について、小単元の最初に記した見通しの記述と比較して、考えが深まった点や視点が増えた点などを個人で確認する時間とした。また、小単元(2)「第一次世界大戦と大衆社会」(ア)(イ)の学習を終え、小単元(1)「国際秩序の変化や大衆化への問い」の終わりに自ら設定した問いとの関係について、新たに気付いたことをワークシートにまとめる場面を設定した。



## 6 探究的な学習における評価について

### ◎ルーブリックによる自己評価、相互評価について

探究的な学習に用いるルーブリックは、「情報収集」「整理分析」「発表」の3つの探究の過程を観点とし、それぞれに判断基準を設定した。学習前にルーブリックを示したことで、生徒の目指すべきゴールが明確になり、自ら考えながら進める主体的な学びにつながった。学習後には再度ルーブリックを用いて活動を振り返りながら自己評価を行い、その後、相互評価を行う場面を設定した。生徒同士の相互評価を取り入れることで、対話的な学びとなり、学習を様々な視点から振り返ることができた。

歴史総合授業プリント 「国際協調と大衆社会の広がり」 探究活動評価シート

1年( )組( )番 氏名( )

◎探究的な学習の振り返り  
「世界各国民の政治や社会は、第一次世界大戦の前後でどのように変化したのか？」

○「探究的な学習ルーブリック」を基に自己評価しよう

	情報収集	整理分析	発表
S	先行研究などの情報にも動機、客観性・信頼性の高い情報を、複数の媒体・情報源から収集している。	収集した情報に基づいて多面的かつ多角的・多角的に考察を行い、考察の結果を分かりやすい言葉で論理的に説明している。	表現方法を工夫して聞き手の状況を理解しながら、調査の目的、方法、情報収集・分析、考察を明確に伝えられている。
A	客観性・信頼性の高い情報を、複数の媒体・情報源から収集している。	収集した情報に基づいて多面的に考察を行い、考察の結果を分かりやすい言葉で論理的にまとめている。	表現方法を工夫して、調査の目的、方法、情報収集・分析、考察を明確に伝えられている。
B	客観性・信頼性の高い情報源から収集している。	収集した情報に基づいて多面的な考察を行い、考察の結果をまとめている。	調査の目的、方法、情報収集・分析、考察の伝達が不明確または欠如している。
C	収集・分析した情報の客観性・信頼性が低い。	考察、まとめが不十分である。	調査の目的、方法、情報収集・分析、考察の伝達が不明確または欠如している。

・情報収集 S・A・B・C ← 当てはまるものに○  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

・整理分析 S・A・B・C ← 当てはまるものに○  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

・発表 S・A・B・C ← 当てはまるものに○  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

○探究活動に取り組んだ感想を書きましよう  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

探究活動評価シート

### ◎「思考・判断・表現」の評価例

教師による評価は、振り返りシートの「第一次世界大戦後の『大衆化』とはどのようなものか？」に対する生徒の記述を分析し、以下のような判断基準で行った。習得した知識や概念を活用して、第一次世界大戦後の大衆化の推移や展開を説明した記述をB評価とし、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し、説明している記述に関してはA評価とした。

「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
習得した知識や概念を活用して、大衆化の推移や展開について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして、論理的にまとめている。	習得した知識や概念を活用して、大衆化の推移や展開についてまとめている。	習得した知識や概念が整理できておらず、大衆化の推移や展開についてまとめることができていない。

#### 【B評価の記述例】

大量生産・大量消費社会の到来や都市化の進行により、余暇を楽しむ大衆向けの文化が発展した。第一次世界大戦が総力戦であったため、大衆の社会的地位が向上し、政治に参加するようになった。教育の普及やマスメディアの発達によって、大衆の自覚が高まり、社会運動も活発になった。

#### 【A評価の記述例】

第一次世界大戦を機に、第二次産業革命の流れが加速し、欧米諸国、特にアメリカを中心に生活の平準化・画一化が進んだ。また、マスメディアの発達が大衆化に与えた影響は大きい。さらに大衆は第一次世界大戦で総力戦を担ったことから、政治に参加する機会が与えられ、世論が政治に反映されやすくなり、社会運動も活発になっていった。しかし、国によって状況は異なり、日本においては大正デモクラシーとよばれる民主主義的な風潮が強まったが、女性の参政権は認められなかった。大衆は経済や政治の中心になったが、取り残された人々もいた。

## 7 授業者より～実践の成果とこれからの方向性～

本実践では、生徒がグループ内の仲間と共に問いを追究する探究的な学習を取り入れ、自分たちで作成した新聞記事を用いて多面的・多角的に考察することを通して、深い学びとなるような授業を目指しました。当初は、教師が設定した国や立場から歴史的事象を分析する学習活動に戸惑う生徒も見受けられました。しかし、授業後の生徒の振り返りからも分かるように、歴史的な事象について、収集した資料やデータの事実に基づき、自分の立場を明確にした上で分析するよう指導したことにより、生徒は、肯定的または否定的立場から記事を書くことができました。このような経験から、生徒は多面的・多角的な視点で歴史的な事象を捉える力を身に付けられたと感じています。また、他グループの新聞記事を共有する際には、グループのメンバーが分担して他グループから聞き取り、情報を集約する活動形態をとりました。この形態をとることにより、「聞き伝えること(アウトプット)を意識した聞き取り(インプット)」が促進され、グループの協働性が高まりました。本実践で行ったこれらの活動を通じて育まれた資質・能力は、広い視野に立ち、国際社会で主体的に生きていくために必要な資質・能力につながっていくものと考えます。



小単元全体の問い(学習課題)を意識しながら、自ら設定した問いと関連付けて課題を追究する学習活動を通して、適切かつ効果的な情報収集、多面的・多角的な考察と表現に取り組む生徒の姿を随所で確認することができ、探究的な学習のよさを再認識することができました。これからの授業においても、生徒が学習課題を追究し、他者と多様な意見を共有しながら自分なりの答えを導いていけるような展開となるよう、模索していきたいと思えます。

### 【 探究的な学習実施後の生徒の振り返り 】

- ・情報を集め、当時の政治的背景や人々の意思などを顧みてまとめていくことはとても楽しかった。いろいろな国の政治や社会について様々な立場で考えることができた。肯定派と否定派では、同じ歴史的な事象に対しても、立場や見方が違うことで結果の受け取り方が大幅に違うということに気づき驚いた。
- ・決められた立場から物事を見ることで、自分の意見を主張するために必要となる情報を見極める力が身に付いたのでよかった。自分たちで調べたことを基に新聞記事を作成したり、他のグループの発表を聞いたりしたことで、教科書を読んだだけでは分からなかった内容も理解することができた。
- ・自分を歴史の中に投影したような体験ができ、最高に楽しかった。当時の人々の歴史的な事象の捉え方を意識して記事を書いたり、それに基づいて発表したり、他グループの発表を聞いたりすることで、学びが広がった。これからも様々な歴史的な事象について探究的に学んでみたいと思った。
- ・グループで役割を分担して、協力することで充実した時間となった。お互いの考えを伝え合い、自分とは違った考え方をたくさん知ることができた。授業で学んだことを基に探究的に学びを進めることで、理解がより深まった。今後も、教科書だけでなく、様々な資料からも多様な考え方に触れ、自分の視野を広げていきたい。

本実践で作成した資料は、栃木県総合教育センターWebサイトで閲覧及びダウンロードできます。また、他教科の実践についても紹介されていますので、ご覧ください。

【問合せ先】 栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070 TEL 028(665)7204

